

## 公的施設への市民参画・社会活動についての考察

著者	小倉 祥子, 宮下 十有
雑誌名	梶山女学園大学研究論集 社会科学篇
号	52
ページ	1-14
発行年	2021-03-01
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1454/00002877/">http://id.nii.ac.jp/1454/00002877/</a>

## 公的施設への市民参画・社会活動についての考察

小 倉 祥 子\*・宮 下 十 有\*\*

Consideration of Civic Participation and Social Activities in Public Facilities  
——The Case of Helsinki Central Library Oodi——

Shoko OGURA and Toari MIYASHITA

### はじめに

男女共同参画会議の仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）に関する専門調査会で示された『『ワーク・ライフ・バランス』推進の基本的方向報告（2017年7月）』によれば、ワーク・ライフ・バランスとは、「老若男女誰もが、仕事、家庭生活、地域生活、個人の自己啓発など、様々な活動について、自ら希望するバランスで展開できる状態」のことである。つまりあらゆる人にとって、「仕事の充実」と「仕事以外の生活の充実」が、個人の生活全般の充実につながる好循環を生み出すと考えられたのである。

2007年12月18日には、政労使からなる「仕事と生活の調和推進官民トップ会議」において、「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）憲章」および「仕事と生活の調和推進のための行動指針」を策定（2010年6月に改定）した。13年が経過したが、未だに生活者が理想とするワーク・ライフ・バランスの実現には至っていない。

近年の社会学や経済・社会政策の研究からは、「仕事以外の生活の充実」において、男性雇用者の家事育児参加（松田・鈴木2001、松田2006、池田2010、小原2018、佐々木2018など）を課題とした研究が散見している。一方、ワーク・ライフ・バランスの主体は「誰もが」であり、「仕事以外の生活」とは家庭生活だけでなく、地域でのボランティアや個人の自己啓発などが含まれている。こうした仕事でもなく家庭生活でもない、社会活動や自己啓発に関する時間配分に関わる研究（藤原2016など）への問題意識はあまり伸展していない。

そこで本稿では、日本の一般市民の社会活動・参画が理想通り進まない理由として、それぞれの個人の時間的な制約があるにしろ、行動に移しにくい実態があるのではないかと

---

\* 人間関係学部 人間関係学科

\*\* 文化情報学部 メディア情報学科

仮定した。たとえば小倉（2005）によれば、新潟県の有業者50歳～64歳に対して実施した「定年退職後の就業ニーズ調査」によれば、定年に備えて準備すべきと思っていることについて、「趣味をもつ」（男性45.3％、女性53.0）が、「健康の維持や管理」「貯蓄」に次いで選ばれていた。しかし定年後の生活に備えて現在趣味をもっている、と回答したのは男性37.7％、女性36.4％であった。つまり定年退職後の生活への必要性は感じているものの、有職時には自己研鑽のための行動に移せずにいることが示されている。

ではどうすれば社会活動や自己啓発に取り組むための時間を作ることができるのか。その解決策として、身近な施設を利用することで市民が社会参画へ誘導されるしくみの可能性について検討していくこととする。本稿では2018年に開館したヘルシンキにある中央図書館について事例としてとりあげる。この公立図書館は、建設計画以降ヘルシンキ市民が関わり現在に至っている。そこで具体的には市民がどのようなレベルで、どのような事業に関わったのかについて、現地への聞き取り調査から明らかにするものである。

今回の現地調査は、2020年2月14日（金）～15日（土）の2日間であった。本稿では、初日の10：00～12：00にかけて、ヘルシンキ中央図書館のサービス課長であるカリ・ラムサ（Kari Lämäsä）氏へのヒアリング調査<sup>1)</sup>から知り得た情報を元にまとめることとする。カリ・ラムサ氏はヘルシンキ市の職員（図書館職員）であり、15年前から新図書館建設計画に携わってきた人物である。ヒアリング調査に際して、カリ・ラムサ氏との日程調査、質問項目の事前送付および当日の通訳については、マيسオミ社<sup>2)</sup>に業務委託をして実施した。

## 1. ヘルシンキ中央図書館の概要

フィンランド鉄道（VR）の、ヘルシンキ中央駅西口バスターミナルから200メートルほど線路沿いに北上すると、今回の調査先であるヘルシンキ中央図書館、通称「Oodi」に到着する。Oodiは、2017年のフィンランド独立100周年記念事業として、建設費およそ9,800万ユーロをかけて建設された。費用のうち3割は国から補助されており、独立101年になる前日の2018年12月5日<sup>3)</sup>にオープンしている。

完成したOodiは敷地が1.7万m<sup>2</sup>で、延床面積は1万m<sup>2</sup>（地下1階地上3階建て）である。外観は、1、2階部分は木製の外壁で、1階正面入口付近は屋根と外壁が一体化した曲線的な構造をしている。また3階部分の外壁は全面ガラス張りである。ヘルシンキ中央駅や、フィンランド国会議事堂、キアズマ（Kiasma）現代美術館やヘルシンキ音楽センターなど、政治的・文化的な建造物が立ち並ぶトゥーロンラッティ（Töölönlahti）地区において、周囲の環境に馴染みつつも、Oodiの斬新なデザインは公共の建物として目をひくものであった（資料1）。

施設内には、地下に男女共用トイレがある。北欧では公共施設における男女共同トイレは一般化しつつあるとのことであった。1階フロア（資料2）には、南北に出入口、西側に正面エントランスがあり、正面から建物に入ると、目の前に書籍の返却専用カウンターが設けられている。その他には、座席数250席の映画館（Kino Regina）、レストランOodi<sup>4)</sup>、240m<sup>2</sup>のマイヤンサリ（Maijansali）ホール、Brygga、Europa Experienceなどのブースがある。



資料1 Oodi外観（正面エントランスは画面左側）

出所：Oodi公式HP（Photo: Maarit Hohteri）

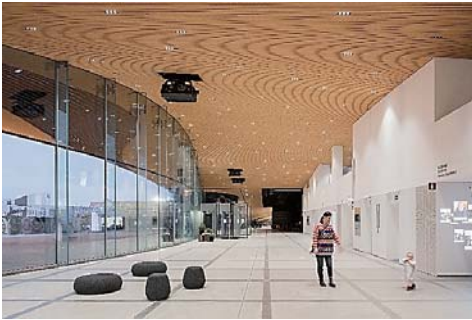
注）資料1, 2, 4～7は、Oodi公式HP＞For Media＞Photos of Oodi 内画像をDLしたものである（カッコ内に写真家氏名を付記）。

2階フロアは、エスカレーターで上がってすぐの場所に、鉄骨を木で覆った太い柱と、黒い鉄骨で囲まれた階段状のフリースペースが半円状に設けられている（資料3）。このスペースには階段の側面や、階段上部天井そばの鉄骨に、2～3メートル間隔でコンセントが設置されている。こうしたフリースペース以外には、グループルーム10室、音楽スタジオ、ゲームルーム、学習スペース（キッチンなど）、印刷室、ワークステーション（資料4）<sup>5)</sup>、アーバンワークショップ、読書室、90m<sup>2</sup>のクーティオ（Kuutio）ホールが入っている。

1, 2階のOodi内の施設を利用したい場合、事前に公式HPにて空室を確認して部屋の予約をとることが可能である。その際、映画館（1F）、マイヤンサリホール（1F）、学習スペース内のキッチン（2F）、クーティオホール（2F）については利用料金がかかるが、それ以外のグループルームやスタジオなどの施設はヘルシンキ市民であれば無料<sup>6)</sup>で利用することができるという。

3階フロアはいわゆる図書のスペースで、本の楽園と呼ばれており、およそ8.5万冊の書籍等が本棚に並べられている。アルミ素材で作られた本棚はあえて棚を低くしてあり、本棚には背板がないため、書棚がすべて見渡せるようになっている（資料5）。本棚が置かれている周辺にはフリースペースが多く、北欧デザインのソファや机、椅子が置かれているだけでなく、階段状の床に腰かけて書籍を読むことも出来る（資料6）。またこれまでに棚の上をランウェイにしたファッションショーを開催したこともあるという。それ





**資料2** Oodi1階（正面出入り口は画面左側奥）  
出所：Oodi 公式HP（Photo: Tuomas Uusheimo）



**資料3** Oodi2階（フリースペース）  
出所：著者撮影（2020.02.15）



**資料4** Oodi2階（ワークステーションの一部）  
出所：Oodi 公式HP（Photo: Jonna Pennanen）



**資料5** Oodi3階（書籍棚）  
出所：Oodi 公式HP（Photo: Kuvio）



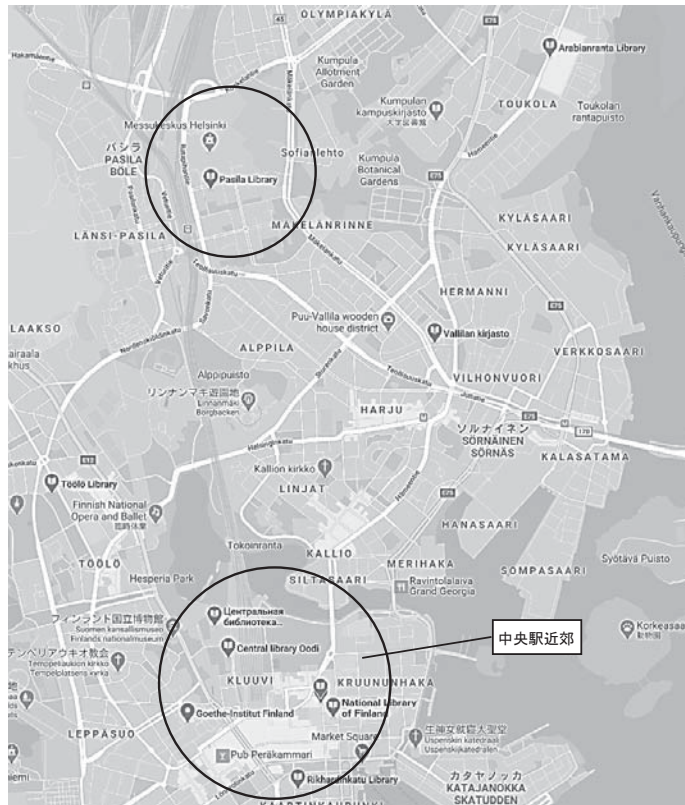
**資料6** Oodi3階（北側フリースペース）  
出所：Oodi 公式HP（Photo: Andrey Shadrin）



**資料7** Oodi3階（南側）  
出所：Oodi 公式HP（Photo: Risto Rimppi）

以外のスペースには、イベントスペース（資料7）、ストーリー・ルーム、子ども用施設（児童室）、カフェが併設されている。

Oodiは施設開館から14ヶ月（聞き取り調査時点）が経過しているが、設備等について完成してはいない状況である。2018年の独立記念日前日に市民にお披露目のために開館



資料9 ヘルシンキ市内地図（一部分）

出所：google.com/maps/search/library

したが、2階部分はその数日後にはしばらく閉鎖し、内装等の完成作業を進めたという。我々の調査時点においても、蛍光ラインの入ったオレンジ色の作業服を着た作業員が、複人数で2階の配線作業を実施していた。カリ・ラムサ氏によれば、図書館の開館時間が長く、来館者の多い時間帯には作業が進められないため、できるだけ来館者の少ない時間帯に限定して、現在も少しずつ作業を進めており、完成の見通しはたっていないという。

以上がOodiの施設概要である。このように莫大な資金をかけて、ヘルシンキ市内においてもっとも地代の高い地域である中央駅そばの敷地に、新たに公立図書館を建設した理由は何であろうか。そもそもOodiがオープンする以前のヘルシンキ市内の公的な図書館は、ヘルシンキ中央駅を中心に半径1キロ圏内に限定しても、フィンランド国立図書館、リクハルディンカトゥ（Rikhardinkatu）図書館、カイサハウス（Kaisa House）ヘルシンキ大学図書館、トーロ（Töölö）図書館など、公共図書館や学術図書館がすでに存在していた（資料9）。また、現在のOodiのような中央図書館の機能は、VRでヘルシンキ中央駅から一駅先のパシラにあるパシラ（Pasila）図書館が果たしていたのである。ではどのような理由から新しい図書館が必要となりOodiが建設されたのか、次節でみていこう。

## 2. ヘルシンキ中央図書館設立の経緯

ヘルシンキ中央図書館の設立が最初に提案されたのは1998年で、当時の文化大臣であるクラス・アンデルソン（Claes Andersson）氏によるものだった。その後およそ10年間は、アアルト大学を中心に、主に学生のプロジェクトとしてどのようなスタイルの図書館が市民に求められているのか、市民のニーズに応えるために図書館とはどのようなスペースであるべきなのか、といった調査・研究が実施された。

2010年頃になると、教育文化省から、既存の「図書館法」を改正し、市民のニーズにあった図書館として利用できるような新しい図書館を作り出す必要があるという動きが出てきた。その理由の一つとして、ラップトップパソコンが主流となったことと起業家が増えてきたことが重なり、資本が少なくても図書館で仕事をするのが可能で、こうした個人起業家がミーティング等で図書館のスペースを利用したいという希望が図書館に寄せられるようになった事である。また、フィンランドには何千もの協会や団体があり、会議やイベントを開催するために図書館のスペースを使いたいという希望も多く寄せられたからである。

これまでの図書館は、学生などが勉強するためのスペースは持っていたが、アアルト大学の調査からも、市民が図書館を仕事場として、会議やイベントの開催場所として利用したいという希望があることが分かってきたためである。

こうした法改正への機運のなか、図書館職員を中心として、ヘルシンキ中央図書館の具体的な構想が始まる。まずは2012年にヘルシンキ市民に対して、新しい図書館にどのような夢を描いているかを募集するキャンペーン（the Unel-moi! キャンペーン）を実施した。キャンペーン実施の詳細は次節にて説明するが、このキャンペーンを通して、およそ2,300を超えるアイデアが集められた。集められたアイデアは、以下の6つのカテゴリーに分類された。

- 1) Space for relaxing, slow life
- 2) Space for happenings, workshops, city culture, DIY
- 3) Space for working
- 4) Concepts for peer-to-peer learning and for sharing
- 5) Place for families and dialogue between generations
- 6) Open for all, a non-commercial meeting place

特に多かった意見は、1)、2)であった。しかしこの両者は、これまでの図書館のように静かな場所への期待と、イベントやワークショップ、コンサートなどを実施する新たなスペース機能をもつ場所への期待であり、建築物として両立させるのは難しい要望であった。

同時期に、ヘルシンキ中央図書館の設計について、国際的にコンペティションが開催された。その際に示されたコンセプトは、以下の3つであった。

- 1) Connected with its surroundings
- 2) Standing out and taking its place as an important public building
- 3) Inviting, easy to approach and identity with

また、新しい図書館については、トゥーロンラッティ（Töölönlahti）地区の環境にあったすばらしいデザインであること、ヘルシンキにとってポジティブで文化的なイメージを出すこと、ヘルシンキが革新的な街であることを促進できるものといった要求を充足しなくてはならないとされた。他に具体的な施設として、映画館、カフェ、レストランを併設すること、会議室やミーティングルームの個数、希望する書籍の蔵書数についても事前に条件として提示していた。2012年1月に開示されたコンペティションには544のエントリーがあり、12月に2回目のコンテストが実施され、2013年6月にヘルシンキに拠点をおき事業を展開する建築会社、ALA Architectsのプランが選ばれた。

その後、図書館法が2017年に改正された。それ以前の図書館法では、利用者が無料で書籍を借りることができるといったこれまでの図書館について定めたものであった。以下の4条件が、新しい図書館法で定められた図書館が促進すべき役割である。

#### Library Law 2017

The objectives of this Act are to promote:

- 1) Equal opportunities for everyone to access education and culture
- 2) Availability and use of information; reading culture and versatile literacy skills
- 3) Opportunities for lifelong learning and competence development
- 4) Active citizenship, democracy and freedom of expression

改正された図書館法により、これまでの図書館の利用者が本を借りる、読むといった受動的な役割から、利用者のスキルを開発・発達させ、市民参加を促し、表現の自由があるといった能動的な場所として役割が追加されたのである。この改正は今回のヘルシンキ中央図書館の建設計画における構想が、旧図書館法をどのように改正するのがふさわしいのか先導したともいえよう。

### 3. 図書館設立に向けた市民参画

本節では、新しい図書館が完成するまでの間に、市民がどのように図書館建設計画に参画・参画していたのかについてまとめていこう。ここではどのような図書館を希望するのかについて市民から夢を集めたthe Unel-moi! キャンペーン、市民参加型予算編成への試み、図書館の建築案の決定過程における市民参加について取り上げる。

**the Unel-moi! キャンペーン** 「みなさんは新しい図書館にどんな夢を描いていますか」と問う、the Unel-moi! キャンペーンは2012年に開始された。Unel-moiとは、フィンランド語で夢を見よう、という意味である。図書館職員は、インターネットでアイデアを募集したり、Unel-moiカードを作って既存の図書館に設置してアイデアを募集したりした（資料10）。また図書館から外に出向き、カフェに市民に話を聞きに出向き、また屋外にテントサウナをつくって、「皆さん、サウナに来てください」と呼びかけ、屋外サウナに集まった市民に意見・希望を募ったこともあったという。

バスや電車、トラムに宣伝のポスターを貼り、市民の目にとまるよう工夫した。また著名人（作家、音楽家、スポーツ選手など）にインタビューをして、彼らがどのような夢を図





資料10 the Unel-moi! コメント

出所：Oodi視察資料（PDF）より抜粋



資料11 投票を呼びかける電子パネル

出所：Oodi視察資料（PDF）より抜粋

書館にもっているのかをメディアを通して発信したりもしたという。こうした活動の結果、前節で示したように市民から2,300を超えるアイデア<sup>7)</sup>が寄せられた。

**市民参加型予算編成** 続いて市民参加型の予算編成についてである。これは市民から寄せられた2,300のアイデアから8つのパイロットプロジェクトを作成し、それらに10万ユーロの予算についてどの事業にどの程度予算を振り分けるのかを、市民参加型で決めていったというものである。8つのプロジェクトは以下である。

- New forms of digital culture: new Maker Space Urban Workshop
- Services for families and children: Storybook Birthday Parties at the Library
- Relaxation, silence and slowness: Boundless Space to Allow the Mind to Rest
- New concepts of literature: Lost and Found-contemporary writers bring the classics to life
- Visualizing the reading experience: How books move us
- Events and adventures: Library by night-a singles event between the shelves
- The customer as an active participant: Singing room at Library 10
- New forms of peer learning: Learn from others-festival

これらの8つのプロジェクトは、準備として予算を見積り、ワークショップを企画・参加者を募集し、既存の図書館においてすべて実施した。その結果、それぞれのプロジェクトにどれくらいの市民が参加したのか、参加した市民はどのような意見を持ったのかについて集約していった。それらの分析・結果を参考に、予算編成に参加していた市民は自分が良いと思うプロジェクトを選択していったという。こうした市民参加型の予算編成は、ヘルシンキでは青少年やスポーツに関するものではすでに実施されていたが、文化に関するものでは初の試みであったという。

**建築コンペディション** 建築コンペディションにおいては、2013年3月に最終選考に残った6案について、街中でタッチパネルを利用して市民にどの建物がいいと思うか投票を呼びかけたという(資料11)。このように建築コンペディションの決定までのプロセスをオープンにすることで、ヘルシンキ市民に新しい図書館への関心を常にもってもらえるように工夫したという。

**その他** その他にも新しい図書館の開館までには、市民参加により決定された項目があった。例えば、施設概要で前掲した地下1階の男女共用トイレについてである。こちらは市民アンケートを実施し、男女共用が良いのではないかという結果から決定されたという。カリ・ラムサ氏によれば、男女共同トイレについては、男女別のトイレよりも汚さない、犯罪が減るという効果<sup>8)</sup>があることが研究されているという。

また新しい図書館の名称について一般公募し、1,600件以上の候補から選ばれたのが「Oodi」であった。フィンランド政府観光局によれば、Oodiとはフィンランド語で「頌歌」という意味があり、フィンランド人が独立100周年を祝福する気持ちや、文化や芸術を愛するフィンランド人への贈り物、という意味を込めて名付けられたとのことである。

#### 4. 公共施設としての役割と日本への示唆

最後に本稿の目的である、新たな役割を担う図書館として開館したOodiの事例から、公的施設の役割について、私たちの社会活動への参加や自己研鑽への機会の増進に向けた、いくつかの示唆についてまとめていこう。

一つには、2012年以降開館までのおよそ6年を通して、図書館建設計画案の段階からいくつもの項目でヘルシンキ市民の参画を促しながら開館に至った点である。公的な施設の建設について行政まかせではなく、市民が主体の一つとして、ヘルシンキの図書館として新たに必要な機能は何であるか、またどのような施設を未来に残す必要があるのかを考え、行動している。

市民の参画・参加の負担や責任の程度にはグラデーションがあり、もっとも手軽なthe Unel-moi! キャンペーンのように、自分の希望をカードに書いて提出したり、SNSを通じて発信したりするものから、パイロットプロジェクトにおける市民参加型の予算配分の決定のためにワークショップへ参加<sup>9)</sup>など、ある程度の知識やワークショップ参加への時間を割く必要があるものまで様々である。このようなヘルシンキ市による新図書館建設に向けた、長期間の市民参加プログラムの戦略は、2018年12月5日の開館以降、どのような効果がみられたのか。まずは一日の来館者数がしばらくは1万人であり、想定していた8千人をおおきく上回ったことから、市民の図書館への興味関心が高く、建設までの期間に長期間にわたり、新しい図書館についての情報を出し続けてきた一つの成果であるといえよう。

次には、図書館が市民活動の場として人々が集えるスペースを兼ね備えたことで、催しものを開催したい市民にとってスペースが確保されただけでなく、来館者が新たな団体や協会などの活動を目にする機会が増えることにも貢献している点である。1節の図書館施設の概要で紹介したように一部のスペース以外は無料で借りることができるだけでなく、マイヤンサリホール以外は、一般公開されるイベントにのみ使用できるルールになっている。つまりイベントに参加することを目的に来館した人でなくても、偶然開催しているイベントに興味を持てば、だれでも参加することが可能になり、自己研鑽の場の拡大につながっていくのである。

三つ目としては、Oodiがいわゆるこれまでの受動的な図書館の役割から能動的な役割を追加したことで、本来の図書の貸し出し件数が増えたという点である。携帯の充電に、

お茶を飲み、仕事の打ち合わせに、3Dプリンターでアクセサリを作り、友達とゲーム対戦をしになど、こうした様々な活動がかなう新しい機能をもつOodiであるが、人が集まることにより、Oodiの利用者により従来よりもヘルシンキ市の公立図書館で貸し出される書籍数が増えたことは、図書館職員にとっても意外な効果であったという。

## おわりに

本稿は、家庭生活や仕事といった二領域に時間を費やすことが多く、社会貢献や自己研鑽に時間を割きたいという希望があったとしても実現が難しい日本の状況から、公的施設としての図書館が、市民と地域社会との連携を可能にさせる可能性について、ヘルシンキに新しく建設された中央図書館、Oodiのケースから模索することを目的にまとめたものである。

今回のOodiのケースからは、公的施設の発案から設計、開館、開館後の維持に至るまで、市民参加プログラムを効果的に導入することで、市民の地域資源への関わりを強め市民参画・参加を効果的に維持・継続されたことが示された。市民にとって地域への関わりについて納税者であるという意識以外に、地域を創造する主体であるということを意識させたといえよう。このような視点は、私たちにとっても私たち自身がどのような公的な施設があることで社会活動へと参加しやすくなるのか、またはその仕組みづくりについて行政に任せるのではなく、地域を担う市民としての在り方を意識させるよい機会になるだろう。

本稿では公的施設である図書館の建設のケースについてみてきたが、私たちは自分が暮らす生活圏の中で、どのような地域社会を創造していきたいのか、またそれにどのように関わり暮らしていくのかについて、今一度検討する必要があるだろう。職業人や家庭人としてだけでなく、地域社会においても自らの能力をどのように活かすことが出来るのか、またそうした社会活動への時間のシフトをどのような仕組みによりよりスムーズに移行することが出来るのかについて、さらに検討していきたい。

## 謝辞

本研究は、科学研究助成事業（基盤研究（C））研究課題名「女性のキャリア形成の変容」を受けて行った研究成果の一部をまとめたものである。

## 注

- 1) その他に、フィンランド国立図書館とアラビア公立図書館の視察、ヘルシンキ中央図書館内の視覚資料撮影を数回に分けて実施した。
- 2) マイスオミ (<https://mysuomi.fi/>) は、フィンランドの視察・ガイドツアーの現地手配会社である。
- 3) フィンランドの独立記念日は、12月6日である。
- 4) 運営は、Fazer Food & Co.で、テナント料と売り上げの一部が図書館に入る仕組みになっている。
- 5) ワークステーションには、メディアワークステーション（PC左利き用含む）、3Dプリンター

## 公的施設への市民参画・社会活動についての考察

- 4台、電子機器作業コーナー、製本作業機、大型刺繍マシン、ミシン、かがり縫いミシン、ロックミシン、ボタンピンメーカー、レーザーカッター、レーザープリンター、UVプリンター、大型カッティングマシンが設置されている。
- 6) ワークステーションにある様々な機器、マシンの利用は無料であるが、作業に必要な材料費は利用者が負担することになっている。
- 7) 市民からのアイデアには具体的な希望が記載されているものもあったが、「市民のオアシス」、「ホッとできて、お茶が出てくる場所」、「〇〇な雰囲気の場所」といった漠然としたイメージを書いてあるものも多くみられたという。
- 8) 調査に同行した通訳者によれば、通訳者の娘が通学する高等学校においても3年ほど前から男女共用トイレに変更されているとのことである。その理由としては、トランスジェンダー生徒に配慮してとのことであった。
- 9) 川地（2018）によれば、実際のワークショップへの参加は60人にとどまり、振り返りとしては参加型予算という響きが、参加者には専門的な知識が必要だというイメージを市民に与えてしまったとのことであった。



## Haastattelukysymykset

### 1. Yleistä Oodista

- a. Suunnittelun ja rakennusprosessin tavoite/tarkoitus
- b. Yhteistyö Pasilan kirjaston kanssa: asiakirjojen ja teosten siirtäminen, sisällön erittely yms.
- c. Vuosittainen kuluttajamäärä/asiakasmäärä: päivässä ja vuodessa (alkuperäinen ennuste/arvio ja toteutunut määrä)
- d. Tämänhetkiseen tarjontaan liittyen: elektronisten julkaisuiden ja paperisten julkaisuiden suhde uudessa budjetissa
  - Onko kirjastosta lainaaminen kallistumassa enemmän ja enemmän e-kirjojen suuntaan paperisten julkaisuiden sijaan?
  - Kaupunkilaisten e-kirjaston käyttöön liittyen (vaikuttavatko ikä ja sukupuoli käyttöön)
- e. Tämänhetkiseen hallintoon ja kuluihin liittyen: hallinto, työntekijöiden määrä, vuosittaiset tilojen ylläpitoon yms. liittyvät kulut, henkilöstökulut, vuokratulot
- f. Näkövammaisiin, kuulovammaisiin yms. asiakkaisiin liittyen: ottaako Oodi heidät huomioon toiminnassaan?
- g. Kirjaston käytön hallinnollinen puoli: Suomen lainsäädäntö, asetukset yms.

### 2. Minkä verran ja minkälaisissa asioissa kaupunkilaiset pääsivät vaikuttamaan kirjaston suunnittelu- ja rakennusprosessiin?

- a. Nimiehdotuksiin liittyen: Mistä lähtien ja millä tavalla kaupunkilaiset pystyivät lähettämään kirjastolle nimiehdotuksia? Minkälaiset henkilöt (ikäryhmä, sukupuoli) ehdottivat enemmistön suosikiksi noussutta nimeä Oodi?
- b. Vuonna 2012 alkaneeseen Unel-moi!-kampanjaan liittyen: Miten kaupunkilaisten ideoita kerättiin?
- c. Millä tavoin kaupunkilaisten ideoita käytettiin kampanjan edistämisen ja päätösten tekemisen pohjana?
- d. Sujuiko osallistuva budjetointi (Participatory Budgeting) kuten odotettiin?
- e. Onko kaupunkilaisten osallistuminen julkisten palveluiden suunnitteluun ja päätöksiin lisääntymässä?

### 3. Onko kaupunkilaisten osallistuminen suunnitteluun yms. ollut odotusten mukaista perustamisesta tähän päivään saakka?

- a. Minkä osa-alueiden suunnitteluun kaupunkilaiset osallistuivat eniten? Mihin vähiten?
- b. Kaupunkilaisten osallistuminen jatkuviin parannustöihin kirjaston aukeamisesta lähtien

### 4. Koetteko kaupunkilaisten suhtautumisen, käytön ja toiminnan muihin julkisiin kirjastoihin liittyen olevan erilaista verrattuna Oodiin, koska he pääsivät itse osaksi Oodin suunnitteluprosessia?

### 5. Antaako Oodi toiminnallaan (kaupunkilaisten osallistuminen suunnitteluun, laboratoriotarvikkeiden yms. tarjoaminen osana palveluita) vaikutteita muille kotimaisille ja ulkomaisille kirjastoille?

2020. 02. 14

小倉 祥子

宮下 十有

## 質問項目

1. Oodiの概要
  - a. 設計・構造のコンセプト
  - b. パシラ図書館との役割分担：書籍の移動、コンテンツの住み分けなど
  - c. 年間の利用者数：1日および年間（当初の見通しと実態）
  - d. 現在の蔵書について：新規予算での購入について電子媒体と紙媒体との比率  
→図書館で本を借りるという行為は、紙媒体から電子書籍にかわりつつあるのか  
→市民のe-ライブラリーの利用実態について（性別や年齢層で利用が異なるか）
  - e. 現在の運営主体・費用について：運営主体、スタッフ数、年間の施設管理などの維持費、人件費、テナント収益
  - f. 視覚障害、聴覚障害などの障害者の利用について：参加を促す仕組みはあるか
  - g. 図書館の施設利用の枠組み：国内の法律、利用範囲の設定など
2. 一般市民がどのようなレベルで、どのような事業に関わって完成したのか
  - a. 名称募集について：いつ頃から募集して、市民はどんな方法で応募するのか。多かった候補名、「Oodi」とはどんな市民（性別、年齢層）が出したアイデアなのか
  - b. 2012年に始まったthe Unel-moi! キャンペーンについて：市民のアイデアの募集方法、市民の応募方法
  - c. 市民のアイデアをもとに、どのように進行し、決定していったのか
  - d. 参加型予算（Participatory Budgeting）の実施は想定通り進んだか
  - e. 公的な事業の決定への市民参画は、増えていく傾向なのか
3. 設立から現在までで、想定していた市民参画は想定通りなのか
  - a. 参画が多かった事業、少なかった事業
  - b. オープン後の継続的な改善についての市民の参画
4. 市民が参画したことで、他の公立図書館への意識・利用・活動と比べ、Oodiへの意識・利用・活動が変化したと感じているか
5. Oddiのあり方（市民活動の場やラボのような機材を提供すること）で、国内外の図書館の在り方に影響を与えているか

### 引用文献一覧

- 池田心豪（2010）「ワーク・ライフ・バランスに関する社会学的研究とその課題—仕事と家庭生活の両に関する研究に着目して」『日本労働研究機構』No.599, JILPT
- 小倉祥子（2005）「第1章 定年後の就業ニーズから考える豊かな老後」『定年退職後の就業ニーズ調査報告書』新潟県地域労使就職支援機構
- 小原美紀（2000）「長時間通勤と市場・家事労働—通勤時間の短い夫は家事を手伝うか？」『日本労働研究雑誌』No.476, JILPT
- 佐々木昇一（2018）「ワークライフバランス時代における男性の家事育児時間の規定要因等に関する実証分析」『生活経済学研究』Vol. 47, 生活経済学会
- 中野あい（2009）「夫の家事・育児参加と妻の就業行動：同時決定バイアスを考慮した分析」『日本統計学会誌』第39巻（1）, 日本統計学会
- 藤原眞砂（2016）「ワークライフバランスの社会学的研究と生活時間研究—全行動時刻別行為者率分析がその展開にどのように貢献出来るかを探る—」『総合政策論叢』第31号, 島根県立大学
- 山口一男（2009）『ワークライフバランス：実証と政策提言』日本経済新聞社
- 松田茂樹・鈴木征男（2001）「夫婦の労働時間と家事時間の関係」『家族社会学研究』家族社会学会
- 松田茂樹（2006）「近年における父親の家事・育児参加の水準と規制要因の変化（特集ワーク・ライフ・バランス）」『季刊家計経済研究』71（2）, 家計経済研究所
- 内閣府男女共同参画局（2007）『「ワーク・ライフ・バランス」推進の基本的方向報告～多様性を尊重し仕事と生活が好循環を生む社会に向けて～』男女共同参画会議 仕事と生活の調査（ワーク・ライフ・バランス）に関する専門調査会
- Oodi 公式HP <https://www.oodihelsinki.fi/en/> 2020.08.13 最終閲覧
- Visit Finland（フィンランド政府観光局）<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000024.000017830.html> 2019.09.06（最終閲覧日）

### 参考文献一覧

- 大谷杏（2018）「移民の学習を支えるフィンランド公立図書館のランゲージ・カフェ」『国際教育』第2号, 日本国際教育学会
- 大谷杏（2017）「フィンランド公立図書館における移民対象イベントの成立要件—エスポー市立図書館で開催されている各種イベントに着目して—」『都留文科大学研究紀要』第85号, 都留文科大学
- 川地真史（2018）「Co-Design; ヘルシンキの新中央図書館Oodiを市民とデザインする」『note』<https://note.com/masa1639/n/nbad11ff2b254> 2019.09.06（最終閲覧日）
- 久野和子（2019）「ヘルシンキ中央図書館“Oodi”の機能理念とその成果」『カレントアウェアネス』No. 342
- 原田安啓（2009）「フィンランドの公共図書館—PISA 学力調査世界一を支える図書館と教育制度—」『奈良大学紀要』第37号, 奈良大学
- Valtioneuvosto ja ministeriöt（教育文化庁）（2018）「Uuden ajan kirjasto Oodi aukeaa itsenäisyyspäivän aattona」[https://minedu.fi/-/uuden-ajan-kirjasto-oodi-aukeaa-itsenaisyyspaivan-aattona?\\_101\\_INSTANCE\\_vnXMrwx9pG9\\_languageId=en\\_US](https://minedu.fi/-/uuden-ajan-kirjasto-oodi-aukeaa-itsenaisyyspaivan-aattona?_101_INSTANCE_vnXMrwx9pG9_languageId=en_US) 2020.08.13（最終閲覧日）
- ALA Architects 公式HP <http://ala.fi/> 2020.08.13（最終閲覧日）